

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-478
研究課題名	頭蓋内胚細胞性腫瘍長期生存例の MRI 所見と高次機能障害 ：全脳照射群と全脳室照射群の比較
研究期間	西暦 2014 年 1 月（倫理委員会承認後）～2018 年 12 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（MRI 画像、臨床診療検査記録）
上記材料の採取期間	西暦 2006 年 01 月～2013 年 11 月
意義、目的	<p>小児期の頭蓋内放射線治療の弊害として、高次機能障害が報告されている。一方、長期生存患者における認知機能障害の発症に関わる病態はまだはっきり分かっていない。MRI 技術の進歩、特に高磁場 MRI（3 テスラ装置）の普及に伴い、認知機能障害に伴う脳の機能的変化が早期にかつ鋭敏に検出され得ると考えた。本研究の主要な目的は、頭蓋内胚細胞腫瘍放射線治療後、長期生存患者を対象に、MRI 機能的画像所見と晩期認知機能障害との相関を検討する。</p>
方法	<p>頭蓋内胚細胞性腫瘍放射線治療後、10 年以上経過した例を対象とし、全脳室照射群（20 例程度）と全脳照射群（20 例程度）に分ける。腫瘍再発の有無の評価を目的とした約半年に 1 度、定期的に施行されている MRI 形態画像に加え、放射線照射治療 10 年後に施行された MRI 機能画像（T2*強調像、拡散テンソル画像、灌流画像、MR スペクトロスコピー）を使用・解析し、MRI 機能的画像所見について全脳室照射群と全脳照射群を比較する。また MRI 画像所見と高次機能障害の有無や程度との相関を検討する。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学医学系研究科量子診断学分野講師 麦倉俊司 022-717-7312